

## 知事と区市町村長との意見交換

(品川区、千代田区、中央区、葛飾区、府中市)

令和 5 年 11 月 1 日(水)

10 時 45 分～11 時 55 分

○**行政部長** それでは本日の意見交換、5つの自治体を予定しておりまして、まず品川から始めさせていただきます。区长、私どもの映像と音声しっかり届いておりますでしょうか。

○**品川区長** 届いております。ありがとうございます。

○**行政部長** 区长の音声も届いておりますので、それでは品川区長との意見交換を始めさせていただきます。初めに知事から一言お願いします。

○**知事** 森澤さんお元気そうで何よりでございます。御活躍なによりでございます。都はヤングケアラーの具体的な支援方法を整理しまして、マニュアルを今年の3月に整理をしたばかりであります。品川区でもLINEを使われてヤングケアラーさんのSNS相談窓口を開設するという事などを進めておられます。

東京、品川それぞれ誰一人取り残さない社会の実現に向けて取り組んでまいりましょう。今日は品川区の最近の状況、そしてまた地域の特性を踏まえて地域資源を活用したまちづくりについて進めていくという、このポイントに絞りましてお話を伺わせていただきます。よろしくをお願いします。

○**行政部長** 区长御発言どうぞ。

○**品川区長** よろしくをお願いします。改めまして、おはようございます。品川区長の森澤恭子です。このたびは、小池知事との直接の意見交換、貴重な機会をありがとうございます。早速ですけれども、まず自治体PRをさせていただきます。品川区はスタートアップ企業の集積である五反田バレー、女性起業家、戸越銀座商店街など100近い商店街、天王洲や目黒川などの水辺空間、歴史アートなどさまざまなポテンシャルを有するまちです。

羽田の国際化やリニア開業などを見据えて、引き続き都と連携をしてにぎわいの創出、そして国際競争力の強化に努めていきたいというふうに考えております。昨年12月に区長に就任しまして、間もなく1年が経とうとしております。「誰もが生きがいを感じ、自分らしく暮らしていけるしながわ」を区民とともに創っていくことを掲げ、子育て三つの無償化など、さまざまな新規施策を打ち出し、区政を前に進めるべく取り組んでおります。

私の目指している新時代の品川、ひいては区民のウェルビーイング、区民の幸福(しあわせ)向上に直結することを大胆かつ戦略的に施策を展開してまいります。意見交換の本題に入らせていただきます。

まず、子どもの政策の推進に係る都との連携についてです。現在、区では、「子育て教育で選ばれるしながわ」の実現に向け、他自治体に先駆け、スピード感を持って先進的な少子化対策、子育て施策を積極的に推進しております。令和5年度は当初予算及び補正予算によ

りまして、国の「保育所の空き定員等を活用した未就園児の定期的な預かりモデル事業」及び都の「多様な他者との関わりの方の創出事業」をたくさん活用させていただいておりまして、保健センターと連携した品川モデルの構築に向けて事業を実施しております。

また、都では、子育て世帯へのアウトリーチ型の支援として、「ファミリー・アテンダント事業」を実施されておりますけれども、区におきましてもちょうど先週からなのでけれども、育児の孤立防止や保護者への経済的支援の充実を目的として、0歳児家庭への「おむつ宅配定期訪問」を開始しました。これは都議会時代も提唱していたものであります。国のこども未来政策、そして都のこども未来アクションそれぞれが相まって、子育て政策がより一層推進されていくものと思われまますが、施策の推進に当たりましては、都区が十分に連携を図っていくとともに、都におかれましては適切な財源の確保ならび国への働きかけをお願いしたいと思います。先ほど知事より言及をいただきました。ヤングケアラーにつきましては、当事者の方を相談員として配置しております。そういった点も品川区独自のことでやっております。

次に、東京ベイ eSG プロジェクトの将来像の実現に向けた水辺利活用や舟運事業に係る都との連携についてお話をさせていただきます。

運河ルネサンス協議会等への支援と指導の強化や、動力船と非動力船が共存できるよう実態を踏まえた航行ルールの改定を進めていただくとともに、舟運活性化事業費補助の適用範囲の拡充や、都内全体で舟運連携を図るための仕組みづくりのほか、合流式下水道の改善、目黒川や勝島運河等におけるしゅんせつなど、各局における重層的な取組や支援をお願いしたいと思います。舟運等の取組としては、船着場の整備や都と連携をした「らくらく舟運通勤」の実施、都区防災訓練では、防災船着場を活用した船舶による物資運搬訓練を行いました。昨年度行いました「らくらく舟運通勤」では、乗船された方の満足度が高く、今後の利用意向や課題も確認できたことから、大きな成果を得られました。引き続き、通勤などへ活用できる舟運の実現に向けて、是非とも都と連携をし、取組を推進していきたいと考えています。

一方で、都では「東京ベイ eSG まちづくり戦略 2022」を策定し、次世代の都市づくりを進めていくための取組を進められております。区においても、羽田アクセス線の計画などとあわせて、大規模工場の跡地などを含め、周辺のまちづくりについて東京都と連携をして東京ベイ eSG プロジェクトの実現に取り組んでいきたいと考えています。あわせて、品川浦、アートのまち、天王洲、大井ホッケー場などのポテンシャルを生かした水辺空間のブランディングを進めていきたいと考えています。都におかれましても、「東京ベイ eSG まちづくり戦略 2022」の将来像の実現に向け、官民が連携して水辺に開かれたまちづくりをできるよう、各局における重層的な取組や支援をお願いしたいと思います。また、併せて有事の際に水上輸送が機能するよう、広域的なネットワークの確立や連絡体制の構築など、実際の運用を前提としたルールづくりをお願いしたいと思います。

最後にスタートアップ支援に係る都との連携についてです。区には 400 を超えるスタートアップが立地しておりまして、特に五反田・大崎地域は「五反田バレー」と呼ばれ、情報

通信業・スタートアップの一大集積地となっています。五反田バレーは区と連携協定を締結し、地域に根差した団体としてのビジネスマッチング交流イベントの開催、中学生向けにスタートアップの仕事を紹介するジョブツアーの実施など、スタートアップコミュニティの発展に向けた取組を進めております。また、品川産業支援交流施設、通称 SHIP や区内に点在する創業支援センターを拠点とした新たなイノベーションが生まれる環境の整備にも努めています。一方、都におかれましては、すでにさまざまなスタートアップ創業支援を進めておられますが、今月には東京からイノベーションを巻き起こすことを目指し、国内外からスタートアップやその支援者が集い、交流する一大拠点、「Tokyo Innovation Base」がプレオープン、また、持続可能な新しい価値を生み出す「SusHi Tech Tokyo」の推進など、こうした都の新たな取組と連携し、地域産業の発展等に努めていきたいと考えております。今後とも創業経費や技術実証経費支援などの拡充をはじめ、若者をはじめとしたアントレプレナーシップ育成での都と区の連携など、起業家に対する支援体制をさらに強化していきたいと存じます。終わりになりますけれども、区の施策の推進に当たっては関係機関、特に東京都との連携が必要不可欠と感じております。引き続きご支援ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○行政部長 ありがとうございます。それでは、まず知事をお願いします。

○知事 就任1年ということで、大変盛りだくさんに活発に御活動されていることはよくわかりました。地域の特性を踏まえながら、地域特産、地域の資源を活用するまちづくりというのは大事だと改めて感じさせていただきました。これからもにぎわいと活力にあふれた都市づくりということで、うまく連携していければと思っております。

何点かのご要望ありました。最後の部分、私はスタートアップの件について一言申し上げさせていただきます。「Global Innovation with STARTUPS」ということを策定しまして、未来を切り開くイノベーションの、この数量的な目標として、都とスタートアップとの協働実践数が10倍、それから都政の最重要課題としてイノベーション創出に取り組むということから、ユニコーンの数は10倍、起業数が10倍と何でも10倍10倍10倍ということで、この際、大きく設定をしております。品川の五反田バレーとも連携しながら、全体としてその10倍10掛ける10掛ける10。世の中の流れがあまりにも速いですから、これぐらいの大きな目標を掲げていって、それぞれの良さをふんだんに生かしていくということだと思いません。

それからの有楽町の方に「Tokyo Innovation Base」という場所をつくりました。そこではスタートアップや学生さん、民間、さまざまな主体の皆さんお集まりいただきまして、今月の27日にプレオープンを迎えるのですけれども、ここもワイワイガヤガヤでこんなことできたらいいねというのを一つずつ実践、実装していくというものでございます。やっぱり東京人手をもっていますので、その人を有効に生かして、そしてアントレプレナーシップ教育についても未来の起業家を増やしていくということで、若いうちから起業家と触れ合っ、起業家になるのは当たり前みたいな、そんな空気を生み出していきたいと思っております。

これからも品川区と共同して応援していきたいと考えています。残り黒沼副知事からお伝えします。

**○副知事** 区長おはようございます。それではご要望をいくつかいただきましたので、私からも発言させていただきます。まず、子ども政策でございますけれども、こちらにつきましては、都と住民に身近な区市町村が地域の実情を踏まえてきめ細かく取組を進めていく、これが何よりも重要でございます。このため、都は御案内のとおり、知事が先頭になって妊婦、それから子育て家庭に対する相談支援、さらには産後ケア、育児パッケージ、いわゆる妊娠、出産、子育てをシームレスに支援を行う。こうした取組を進めております。区市町村の取組を支援してまいります。

また、区長からご紹介いただきました。おむつの宅配定期訪問ですか、こうしたもの素晴らしい取組だと思いますが、こちらにも都の3C補助金がございますので、これをご活用いただいて、3年間に渡って支援する予定ですので、是非ご活用いただければと思います。

また、お話がございました子ども政策の推進には、都だけではだめで、やはり区市町村との連携強化、これが極めて重要です。また、財源の問題もございます。都としては、区市町村と緊密に情報交換、あるいは先進的な事例については横展開を図る、こういったような中で、しっかりと事業と一緒に取組ながら、確実な財源確保については国に対してもしっかりと要望していきたい、このように考えております。

それから「東京ベイ eSG まちづくり戦略 2022」のお話もございました。こちらにつきましては、サステナブル・リカバリーの考え方に基づいて、区や民間企業との連携、民間の創意工夫を生かした都市開発を誘導している。こういうところでございます。

水辺のにぎわい空間、運河ルネサンス、東京港の運河利用に関するルールやマナー、さまざまな取組を展開しているところでございます。また、舟運のお話もございました。船による移動というのは、新たな選択肢ということで、都も積極的に取り組んでおります。今年度から御案内のとおり、立ち上げ期の運航経費、あるいは船舶整備に関する支援を開始し、先日、日本橋～豊洲航路が運航を開始したところでございます。非常に好評をいただいております。今後も舟運の活性化に向けた取組を進めてまいります。あわせて水質改善、合流式下水道の話もいただきました。こちらにつきましては、しっかりと下水を貯留する施設の整備などを進め、目黒川等のしゅんせつ工事も計画的に実施をし、ベイエリアの将来像の実現に取り組んでまいります。

最後になりますが、いわゆるその舟運の有事の際の活用のお話もございました。極めて有効な手段であるというふうに考えております。都は関係区、警察、消防などとの検討会において、水上ルートやあるいはそうしたものを確保したり、運用マニュアル、こういったようなものを作成しまして、今後のルールづくり、水上ルートの活用の実効性を一層向上させていきたい、このように考えております。以上です。

**○行政部長** ありがとうございました。区長追加で、特に御発言等ございましたらどうぞ。

**○品川区長** ありがとうございました。人を中心に都と区が連携して引き続きお願いできればと思います。ありがとうございました。

○知事 ご苦勞様です。おむつの宅配も始めるということでございますが、ガザも今、おむつとか生理用品とかもうそれどころではないということなんですが、昨日エジプトの製造会社と WHO と結びつけまして、できるだけ入れるように手はず整いました。その前に衣料品とか水が最優先だとは思いますが、女の子、女性それから子供があまりにもひどいということで、着々とそういったことも行っております。以上ありがとうございました。これからも頑張っていきたいと思います。

○品川区長 ありがとうございます。

○行政部長 以上で意見交換終了させていただきます。それでは、次に移らせていただきます。

○行政部長 それでは、千代田区長との意見交換を始めさせていただきます。初めに知事からお願いします。

○知事 おはようございます。この間、神田古本まつり行けなくてごめんなさい。今日は都の子育て情報サイトでチャットボットやっているという話、千代田区の方でDX活用して子育て関係申請のオンラインのポータルサイトの開設などなど、お互いにそれぞれのノウハウを生かしながら進めていきたいと思います。今日はまずウォークアブルなまちづくりとか外濠、これはもうずっと長年のテーマです、いろいろお話を伺いまして、そして都への要望を伺わせていただきます。よろしくをお願いします。

○行政部長 それでは、区長どうぞ。

○千代田区長 千代田区の樋口高頭です。本年もこのような機会を設けていただきまして、誠にありがとうございます。これまで小池知事とは2回の意見交換をさせていただきました。都からこの間ご支援いただきましたことは少し冒頭ご紹介させていただければと思います。

まず、一昨年お話ししましたのがウォークアブルなまちづくりです。特に昨年の丸の内ストリートパークでは、より深い連携を図らせていただきました。当地のエリアマネジメント協会が主体となり、都道である行幸通りまで区域を拡大しまして、環境配慮型のスケートリンクを設置するなど、過去最大規模で開催をされました。小池知事にも視察にお越しいただきありがとうございました。あわせてパークストリート東京として東京都が主催したニューヨーク市や地域団体とのトークセッションでは、今後のまちづくりに向けた知見を区の職員共々得ることができました。なお、本区では区道のプレイスメイキングなど、区独自の取組も鋭意進めております。

従前からご支援をお願いしております、区内の靖国も含めた都道ですとか、あるいは日本橋川、神田川といった河川敷地、こういった弾力的な活用も具体の施策展開に際しましては今後とも力強い御支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。また、去年は外濠浄化プロジェクトについてもお話ししました。

東京都から引き継ぎました導水までの間の暫定対策については、今年度も着実に実施しております。外濠は千代田区民が誇りに思うアイデンティティの一つであります。水質浄化には、区民の皆さんからも高い関心と期待が寄せられています。私も視察に伺いましたが、先日、都庁の職員さんも来られて富士見小学校ではちょうど地元の子どもたちへの勉強会がありましたが、大変好評でありました。2030年代の導水までの間、当区は暫定対策を努めてまいります。東京都におかれましては、貯留管の整備、運用などを含めて外濠浄化プロジェクトの着実な推進をよろしくお願いいたします。

それでは本題に入りたいと思います。本日は未来の東京戦略について二点申し上げます。本区の産業振興基本計画は本年3月に改定したのですが、これまでは別の計画でありました観光の視点を加えまして、千代田の暮らしを豊かにし、まちのステータスを高める、産業まちづくりを今進めているところであります。その新たな基本計画のもとで進めるのが、スタートアップ支援と新産業振興についてまず申し上げたいと思います。当区におきまして

はイノベーションの創出、新たな産業構造への転換が求められておりますが、やっぱり地域特性を生かしたこうした経済の活性化が重要だと考えています。実は本区のスタートアップの立地は、渋谷区、港区に次いで23区で3番目でありまして、都内でも有数の集積地があります。しかしながら、スタートアップと行政、地域社会とのつながりが少なく、彼らの力を地域として生かされていっていないというのが実情であります。改めて、実は区内を見渡してみますと、神保町エリアには印刷業ですとか、映像、音声、文字情報などの制作業が集積していますし、あるいは秋葉原エリアには機械器具の卸小売業、情報処理産業に立脚した文化、コンテンツ、電機などの集積した業種もおられるということです。

そこで、こうした本区の特徴を生かし、仮称ではありますが、千代田カルチャーアンドテックとしてオンラインやオフラインでイベントやコミュニティの形成などを今、推進しているところです。一方で、既に区内では、東京創業ステーション丸の内など、東京都のスタートアップ関連施設がございます。今後、セミナーの共同開催など、連携を深めさせていただきたいと考えています。加えまして、新産業については、秋葉原におけるeスポーツなど千代田区の特徴を生かした産業育成を考えています。東京都におかれましても、地域に立脚した新産業の振興ということについては、御支援賜りますようよろしくお願いいたします。

二点目がローカル5Gの活用についてです。現在、東京都ではスマート東京の一環として西新宿スマートシティプロジェクトが展開されておられますが、千代田区でも区内産業の復活の起爆剤として、また、人が近隣に住み、観光地でもある、こうした秋葉原をより安全で、そしてより魅力的なまちにしたい、このように動いてまいりたい、と考えております。具体的には、秋葉原のエリア、特に都道にスマートポールを設置しまして、スマートグラスでARなど秋葉原らしい技術で多言語対応のコンテンツを提供しながら、店舗やトイレ案内、また災害時には避難誘導を考えています。

また、センシング機能で人流や交通のデータを解析し、オーバーツーリズム対策、客引き行為対策、新しいまちづくりの検討など、秋葉原におけるさまざまな地域課題の解決やニーズを先取りする施策を検討しています。そして何より、秋葉原はコンテンツの集積地でもありますから、区内産業も参画できる場所として、またプラットフォームの形成を目指してまいりたいと考えております。これらは『未来の東京』戦略 version up 2023』の各戦略と軌を一にするものと考えております。東京の発展につながる秋葉原の観光と産業振興の取組につきましては、力強い御支援を賜りますようお願い申し上げます。

なお、この件につきましては、産業ですとか、観光、デジタル、まちづくりなど、広範な分野からのアプローチが必要なため、千代田区としても一丸となって取り組む体制を整えてまいります。東京都におかれましては、より一層の幅広い部署の関わりがあろうかと思っております。そうした意味では、庁内においても広く連携をいただき、ご支援、ご協力くださいますよう重ねてお願いを申し上げます。以上が千代田区からの発言でございます。本年も貴重なお時間いただきまして、ありがとうございました。

○行政部長 ありがとうございます。冒頭、まず知事からお願いします。

○知事 千代田区長の方からウォークアブルなまちづくりや外濠の浄化プロジェクト、それ

からスタートアップのことにつきましてお話がありました。

私の方からスタートアップについて申し上げたいと思うのですが、昨年度都としてスタートアップ戦略で Global Innovation with STARTUPS というそういうコンセプトを立ち上げまして、未来を切り開くイノベーションビジョンとして、5年間で東京都のユニコーン数は10倍、起業数が10倍、都とスタートアップする協働実践数10倍、これをかけるとすごい数になるのですが、これくらいの心意気でやっつけようじゃないかと、心意気だけではダメですから、「Tokyo Innovation Base」という具体的な場所をベースに、これは有楽町です、ご承知のとおり。そしてプレオープンを迎えたところでありますし、ここを一つの物理的な景観ではありますけれども、東大の方とかいろんな方々が入り乱れて、というそういう場にしていきたいというふうに思っております。

有楽町ですから、どうぞ千代田区の皆さんも存分にお使いいただいて、千代田区のコミュニティ基盤と都のTIB、「Tokyo Innovation Base」と言っていますが、この連携などを行うことによって、さっきの10倍10倍10倍って、昔薬局が言っていましたよね。そうか、樋口さんの世代では知らないのかな。いずれにしても世界の動きがあまりにも激しいということで、日本でちょこちょこやってもダメなのですよ、早い話。ということで、是非新産業の振興イベントに対する支援など、その他ご要望もありましたので、こちらは今度黒沼副知事の方からお話しさせていただきます。

**○副知事** 区長おはようございます。いつもお世話になります。私からはそれ以外のご発言をいただきましたので、若干発言させていただきます。

千代田カルチャーテックというお話の中で、新産業イベントに対するお話をいただきました。東京の持続的な成長を生み出すためには、お話がございましたとおり、地域の特性を活かしていくということが極めて重要だろうと思います。そのためには、地元の産業の実情に詳しい区と都が連携をして取り組むということが重要であると考えております。都は、各地域の自治体が産業特性を踏まえて行う産業振興の取組、最長3年間にわたって財政面で支援しております。

また区長からeスポーツの話も賜りました。こうしたeスポーツにおいて、多くの方の関心を高めていくとともに、中小企業の優れた製品やサービスの活用が進むよう令和元年度より「東京eスポーツフェスタ」を開催してございます。今後もこうした取組を通じまして、新たな産業振興に結びつけていきたいと、このように考えてございます。

それから、ローカル5Gということで、秋葉原スマート化というお話も賜りました。区長既にご承知のとおり、都では西新宿におきまして、スマート東京の実現に向けて先行実施エリアと位置づけまして、さまざまな取組を進めてございます。こうした取組を生かして、昨年度、地域のご要望に沿った「まちのスマート化」を支援する事業を開始しております。

本事業は、経費の補助だけではなくて、専門家による知見・ネットワークの提供なども行っております。お話がございました、プラットフォームの形成、大学や地元の企業の皆様がプラットフォームを形成する、こういったところにも、我々の専門家の知見等を提供できると思いますので、是非ご活用いただければと思います。



また、秋葉原の中央通り等へのスマートポールの設置につきましては、区のご要望を聞きながら、都としても観光の視点も踏まえながら必要な協力検討を行ってまいります。引き続き、さまざまな観点から、都庁を幅広くという最後にお話しいただきました。多岐に領域がわたりますので、さまざまな観点から都としても連携をして財政面も含めて支援をしてまいります、このように考えております。私からは以上です。

○行政部長 ありがとうございます。区長追加で何か御発言ございましたらどうぞ。

○千代田区長 追加ということではなく、知事、また副知事から力強い、また大変頼もしいお話やお言葉をいただきましてありがとうございます。千代田区は基礎的自治体なものですから、住民福祉の向上、増進が最大の眼目なのですけれども、やはり千代田区のもう一つの魅力は、大きな事業者が、たくさんの事業者がおられて、大学がおられて、病院がおられて、また実はスタートアップも23区で3位に収まるくらい多い、こうした民間活力を活用して最大限生かして、こうした地域の課題や住民福祉の向上に資していこうと、そのように考えております。

今回、大きな舵を切ることになりますので、是非他の区に負けないよう、また東京都からも御支援、御指導を賜りますようよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○行政部長 ありがとうございます。以上で、千代田区長との意見交換終了させていただきます。それでは、次の意見交換に移らせていただきます。

○行政部長 それでは、中央区長との意見交換を始めさせていただきます。それでは、まず知事から一言お願いします。

○知事 山本区長、御苦労さまでございます。昨日も私はKK線を車で通ってまいりました。どういう風に歩いていって、どういう風を楽しめるのかなといろいろ考えながら走らせていたわけでございます。中央区でも、KK線の再生と連携したまちづくりの検討を進めていると伺っております。今日は地域の課題、そして都政に関するご要望などを伺わせていただきたいと思っておりますので、どうぞおはじめください。

○中央区長 日頃より小池都知事には幅広く共同作業をしていただいております、厚く感謝を申し上げたいと思います。また、本日はこのような意見交換の場を作ってください、ありがとうございます。意見交換に先立ち、お時間を少々いただきましたので、本区の紹介をさせていただきます。

今ご覧いただいているのは、今年2月に策定した区の基本計画の中で示しているまちの将来イメージです。日本橋側と臨海部側、それぞれから見たイメージを作成しています。ご覧いただくとおり、非常に都市化が進んでおり、今もなお多くの開発や都市基盤整備が着々と進められているところです。

今日はこの本区の特徴的な数字をいくつか紹介したいと思います。たまたまこれはいずれも本区が23区中一番となっている項目です。まず、左上、2015年から5年間の人口増加率です。19.8%と、この5年間で1.2倍に人口が増えており、2027年中には、人口20万人を突破する見込みです。この人口増加は、主に子育て世帯が中心で、右隣にあります合計特殊出生率、生産年齢人口比率もそれぞれ1.37、71.4%となっており、全国的な少子高齢化のトレンドとは異なり、若く活気のあるまちであります。また、本区は、特に臨海部を中心にタワーマンションなど多くの共同住宅が立ち並んでおり、左下になりますが、人口の実に94.2%の方が共同住宅に居住しておられます。

その隣、区内で住んでいる再開発事業の数も、23区平均の2.8件に対し、本区は13件となっており、ハード面でも非常に勢いのあるまちであります。その隣にあるのは、卸売業、小売業の事業所で、8,864事業所と銀座や日本橋、築地をはじめ、来街者や観光客でにぎわう商いのまちでもあります。都市開発や経済活動が活発な一方で、水面率は16.5%と、隅田川をはじめとした、多くの河川に囲まれた豊かな水辺環境を誇っています。この水辺環境は、国民にとって憩いの場として親しまれただけでなく、江戸以来、本区が経済、文化的に飛躍を遂げてきた過程において、その発展に大きく寄与してきたわけでございます。

このように都心でありながら人と水とみどりにあふれ、誰もが集う粋なまち、それが中央区であります。本区の発展は、すなわち東京の発展でもあり、これまでと同様、これからも、都と密接に連携して、様々な課題を解決していきたいと考えております。

今回は、特に本区が直面する大きな課題である築地のまちづくりと、臨海部のインフラ整備の二点について、意見交換できればと思っております。

まずは築地のまちづくりについてであります。築地市場跡地の再開発事業は、いよいよ令和5年度末に事業予定者が決定されますが、本区はこれまでもこの開発に関して、迅速なま

ちづくりの推進、交通結節点の整備、周辺との調和のとれたまちづくりなどを東京都に要望してまいりました。本開発は本区のみならず、東京の経済・文化の持続的発展につながる一大プロジェクトであることから、築地の歴史性を踏まえ、国際都市東京の顔となるような開発になることを期待しています。

今後、事業予定者の提案に基づき、まちづくりが具体化されていきますが、その際には引き続き地元の考え、思いを十分に考慮いただくとともに、募集要項で示されたにぎわいの先行創出等においても、協力をお願いできればと思います。また、本開発や関連する都心臨海地下鉄新線、高速晴海線などの基盤整備は、区内で検討が進む周辺開発とも密接に関係しており、築地のまちづくりにおいて、各事業との間で様々な調整が発生するものと考えています。今後、発生する本区と各事業予定者との調整が円滑に進むよう都の協力をお願いいたします。

跡地に隣接する築地場外市場は、現在、インバウンドを含む多くの観光客や買い物客でにぎわい、コロナ禍以前の活況を取り戻しつつあります。この場外市場の円滑な運営に当たっては、荷さばきや来街者用駐車場など場外機能の継続的な確保が不可欠です。現在、都から荷さばきや駐車場等の用地として都有地を貸し付けていただいておりますが、引き続き協力をお願いいたします。

続いて開発の続く臨海部におけるインフラ整備についてであります。本区の人口は過去最多を更新し続けており、今後も臨海部を中心に力強い人口増加が続くものと見込んでいます。「Harumi Flag」への入居開始が、いよいよ来年1月に迫り、本区では現在、公共施設等の開設準備を進めていますが、区民が暮らしやすい環境を確保するためには、行政サービスに限らず、交通や生活利便施設など生活環境の整備についても併せて取り組んでいかなければなりません。

喫緊の課題である交通アクセスに関しては、東京 BRT の本格運行、都バスの増便等について早期に対応していただくとともに、昨年11月に事業計画案が公表されました、都心・臨海地下鉄新線に関しましても、早期事業化に向けた事業スキームの検討を加速していただくようお願いをいたします。

また、「Harumi Flag」の入居開始以降も、臨海部を中心に多くの再開発が計画されており、住民規模に見合う教育施設や大型商業施設などの生活利便施設等の確保が引き続き必要となります。臨海部をより一層生活しやすく、魅力あるまちとするために、地下鉄新線の新駅を中心とした駅まち一体開発など都有地の弾力的な活用について検討をお願いいたします。

冒頭に申し上げましたとおり、本区では住民の9割以上が共同住宅に居住しており、臨海部には多くのタワーマンションが立ち並んでおります。首都直下型地震等の際には、ライフラインの復旧までの期間が長期化した際における在宅避難の難しさなど、高層化が進んだまちであるがゆえの課題も想定されています。

鉄道事業者や大規模集客施設と連携した帰宅困難者対策などと合わせて、都心ならではの災害対策を進めていくことが重要です。これらの対策は、自治体単独の取組では効果が限定的であり、広域自治体である都の果たす役割が大きいことから、都と区で連携して対策を

進めていければと思います。

このように、築地や臨海部をはじめとして、区内では多くの開発が進められており、今、まちが大きく変わろうとしております。その変化の中でも、区政を着実に推進していくためには、都との連携、協力は必要不可欠です。今後とも東京の経済、文化の要である中央区の施策を力強く後押ししていただき、東京、そして日本の未来のために共に歩んでいただけることを強く期待をいたしております。ご清聴ありがとうございました。

○行政部長 ありがとうございました。まず、知事からお願いします。

○知事 私の方からまず一点目でございます。タワーマンション、また「Harumi Flag」ができて上がるということで、ますます居住空間が、この間、随分変わってまいりました。その意味で、関東大震災から100年の節目において、「防災ブック」のリニューアルを行うなど、マンション住民の皆様方に、また、帰宅困難者の皆様方にしっかりとした情報を伝えること、これを行ってまいりたいと思っております。

今後とも貴区をはじめとして、関係区と連携しながら、ハードとソフトの両面から万全の備えをしてまいる所存でございます。この後、副知事の方からお話しさせていただきます。

○副知事 区長おはようございます。副知事の黒沼です。私の方からは、臨海部のインフラ整備と築地のまちづくりについて発言をさせていただきます。まず、東京BRTのお話もございました。令和6年春に選手村跡地であります晴海5丁目西地区のまちびらきに合わせまして、いわゆる本格運行を開始する予定でございます。都バスについても需要の変化とあわせて路線やダイヤの見直しも行っております。晴海エリアの輸送需要について適切に対応していきたい、このように考えています。

また、都心部・臨海地域地下鉄につきましては、昨年11月に国の参画も得た検討会におきまして、事業計画案を取りまとめたところでございます。この計画案をもとに貴区をはじめとした沿線区と検討の場を設けて、沿線開発等のまちづくりと連携した検討を都としても深めてまいります。

続きまして、築地まちづくりのお話をいただきました。この築地の再開発、これは都心にもまたとない広大な土地、それから極めて大きなポテンシャルを秘めている土地でございます。民間の力を最大限に活用しながら、まちづくりを進めていくことが重要でございます。都は、まず舟運、バス、地下鉄などのインフラ広域交通の結節点、これを形成する。さらには築地の場外市場とのつながりにもしっかりと配慮していく。周辺地域などとのシナジー、相乗効果をもたらす開発を進めていく。こういった基本理念に基づいてまちづくりを進めていきたいと考えています。また、高速晴海線などの基盤整備のお話もいただきました。このまちづくりに関連いたしますが、貴区との調整を図っていきたくと思います。

さらに、工事期間中の築地場外市場の事業者向けの荷下ろし場の貸付けでございました。こちらのお話もいただきましたが、築地まちづくり事業の進捗等も踏まえ検討してまいりたいと考えてございます。私から以上でございます。よろしく願いいたします。

○行政部長 ありがとうございました。区長、特に御発言等大丈夫でしょうか。

○中央区長 そうですね。いずれにいたしましても、開発が目白押ししておりますので、これ

らの先ほどのKK線の話もそうでございますし、それから地下鉄の新線のこと。それと、まちとしては「Harumi Flag」でありましたり、新しいまちが生まれてくるということ等もありますので、それぞれが連携をしていきながら、それで中央区を訪れていただいた方々が、これはさすがに新しいこれからの時代に向かったまちであるな、というようなことがわかるように、また一方で水辺と緑化ですね、こういうことも進めていながら、環境に優しい居住空間が、こういったものをこれから目指して、これは先ほども13の開発があるというようなことを書いておりますけれど、その中身をそのような形で整えていながら、あとは高層マンションの防災対策の非常に重要な視点でございますので、この辺もやっぱり区民と区民の共助、要するにその新しい住民の方はまだまだ人と人との関係ができていないということもありますので、そういうようなことを醸成するためのイベントでありましたり、祭りですとか、そういうようなこともなるべく活発にやって参りたいというふうに思いますので、よろしく御指導いただければ幸いです。今日は貴重なお時間をありがとうございました。

○行政部長 ありがとうございました。中央区長との意見交換以上で終了させていただきます。

○行政部長 それでは、葛飾区長との意見交換を開始させていただきます。初めに知事からお願いします。

○知事 区長こんにちは。どうぞ今日もよろしくお願いいいたします。昨日もちょうどこれ池袋だったのですけれども、アニメのコンテンツの拠点つくってきました。やはりキラーコンテンツでありますので、葛飾もこち亀とかキャプテン翼、いろんなキラーコンテンツをお持ちです。うまくこれ取り込んで東京全体のPRにつなげていきたいと思えます。地域の課題、そして都へのご要望を伺わせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願います。

○葛飾区長 本日はお忙しい中こうした場を設けていただきましてありがとうございます。また、小池都知事には都民そして23区の区民のために23区それぞれと連携をさせていただいて、さまざまな事業を進めていただいております。改めて感謝申し上げます。今、アニメの話がございましたけども、葛飾は寅さん以外にもさまざまなアニメ等もございますので、それを是非生かして外国の方にも見ていただきたいなと思っております。

それでは、今日は三点ほどお願いを申し上げます。

初めに新金線の旅客化について、毎回お願いをしておりますけれども、よろしくお願います。少子高齢化が進展しておりますし、脱炭素社会の流れ、そういった社会状況が変化をする中で、公共交通の重要性というのは本当に増していると思っております。鉄道、バス、タクシー、それからスマートモビリティの取組というのは大変重要だと思っております。中でも葛飾区を南北に結ぶ新金貨物線を旅客化する、これは大変重要なことだと私どもは考えているわけでありまして。

令和4年度の昨年ですが、学識経験者、それからJR東日本、JR貨物、京成電鉄、国土交通省、東京都、警視庁、江戸川区で構成する新金貨物線を旅客化する検討委員会を立ち上げました。関係機関とともに具体的な検討を深度化しております。東京都からはオブザーバーとして都市基盤部長に参画をいただいているところでございます。そして、今年度は新たに専門部署を区の中で立ち上げまして、JR東日本の本社または国の国土交通省の各局、それから関係機関との個別のさまざまな協議を進めさせていただいております。

そして、早期実現に向けて取組を進めておりますけれども、今後さらに加速をさせていきたいと思っております。一方で、旅客化の実現に向けてはいろいろな課題、幅広くございますので、東京都におかれましても鉄道整備に係る経験や知識をたくさんお持ちですので、引き続き必要な助言をいただけたらと思っておりますのでよろしくお願います。

そして二つ目です。国際都市東京における外国人労働者の支援についてでございます。葛飾区の外国人はこのところ毎年2,800人ぐらいつづ増えている状況でございます。現在、2万6,174人となり、全体の5.2%ぐらいまで来ました。これからもさらに増えると思っております。そうした状況を踏まえて、現在、外国人の就職支援として、外国人向けのグループワークの実施ですとか、外国人雇用に関する区内企業向けセミナー、それから優秀な外国人労働者の確保に向けた取組、日本語を教えるボランティアの育成、日本語教室運営団体の立ち上げ支援、こういった取組のほかにも、日本人と外国人が協力、交流する環境づくりに積極的に取り組んでまいりました。東京都でも、特定技能制度を中心とした外国人労働者の積極的

な確保に向けた更なる取組の拡充、また今後、現在葛飾区に48人いますウクライナ避難民の支援対策といったことを含めた葛飾区の取り組むべき幅広い外国人施策に対応できる、東京都独自の区と連携した支援体制の構築などについてお願いをしていきたいと思っております。これからさらに進んでいく状況だというふうに考えております。

そして、最後に三つ目です。医療的ケア児等の支援について、重症の心身障害児を受け入れるための施設整備、運営でございます。子育てについては、葛飾区は最重要課題として、この間ずっと取り組んでまいりました。本区では、本年度から公立保育園において医療的ケア児の受け入れを開始させていただきました。医療的ケア児を養育する家庭には在宅レスパイト事業を実施をしているところでございます。今後、特に医療的ケア児を要する重症心身障害児の受け入れや各施策の整備については、専門的な医療技術スタッフの確保、需要に応じた施設数の検討など、広域的な観点で整備運営することが効率的だというふうに考えております。

区としても取組をさらに強めていきたいと考えております。都におかれましても、主体的に取り組んでいただけたらと考えているわけでございます。以上、こうした施策については都と区の連携をさらに強めて事業を進めることが不可欠ですので、よろしくお願いをしたいと思っております。あわせて、この間、税のことをいろいろなことで23区と東京都が連携して国に働きかけていることもたくさんあるというふうに思います。こうしたさまざまな事業について、区そして都、国が連携できるような対策についても構築をしていけたらと思っておりますので、よろしくお願いたします。以上3点簡潔に申し上げました。よろしくお願いたします。

○行政部長 ありがとうございます。まず知事お願いたします。

○知事 三点のご要望ございました。私の方から一番最後の医療的ケア児の支援について話をいたします。最近増えておりますね。医療的ケア児、障害のある子供たち、自分らしく輝ける、そんな共生社会をつくっていくということで、本人と家族を社会全体で支えるということが何よりも重要でございます。

葛飾におかれましても、取組を進めているというお話でございました。都では、医療的ケアを要する重症心身障害児などが利用できる短期入所施設の病床を確保するということと、看護職員の研修など、人材育成にも取り組んでおりますので、また短期の入所開設時に必要な人工呼吸器など、医療機関の医療機器の整備に係る支援、今年度新たに開始しております。区市町村の取組とあわせて必要なサービス、提供体制の整備を進めることで、誰一人取り残さないインクルーシブな社会を実現してまいりたいと考えております。私から以上でこの後、黒沼副知事からお伝えします。

○副知事 区長おはようございます。私の方から新金線と外国人施策について発言をさせていただきます。新金貨物線の旅客化につきましては、昨年もお話しさせていただきましたが、都における鉄道の整備については国の答申において、まず事業化に向けて検討を進めるべきとされた路線を中心に検討しております。本路線はまだ国の答申に位置づけはございませんので、まずは答申に反映させることが必要と考えておりますが、都としては貴区が設

置をした検討会などにおきまして区長からご発言いただきました、技術的な助言も含めて積極的に検討を進めていきたいと考えてございます。

次に、外国人施策のお話も賜りました。まず、日本語教育、これは、外国人がしっかり地域の一員として安心して暮らせるためには、日本語を学べる環境を整備することが重要でございます。都では、地域における日本語教育を推進するため、東京都つながり創生財団と連携をいたしまして、先進事例の共有や助言などさまざまな区市町村の地域性を踏まえた体制整備に支援を行っております。今年度は日本語を初めて学習する方を対象としたオンライン教室も開催をしております。その上、ノウハウ等を区市町村に展開することとしております。

また、外国人材の確保のお話もございました。人材の確保は極めて重要なテーマでございます。都は、東京で働くことを希望する外国人の方に相談を行う、あるいはセミナーなどによる情報提供も行っております。特定技能制度を活用する方も含めまして、外国人の方と企業とのマッチングを後押しする、そうした採用に向けた区市町村の取組も支援を行っております。今後とも区市町村と連携をしながら、外国人の方々が東京で働き活躍していただけるように都としても取組を進めてまいります。私から以上です。

○知事 外国人ってどういう系統の方が多いですか。

○葛飾区長 葛飾区で一番多いのは、中国の方、それから二番目が韓国ですけれども、最近では東南アジアの方が増えてきています、ベトナムとか。そういう方がこれからますます増えてくるのではないかと考えています。そうすると日本語を、従来から住んでいる韓国の方等は日本語をしゃべりますけれども、新しく来る東南アジアの方は日本語をしゃべれない方が多いので、そういったことも課題だと思っています。

○知事 大体、日本の人たちと新しいそういうコミュニティといざこざ起こるのは、ごみの捨て方のお話から来るケースが多いですから、都の方で培ってきておりますいろんなノウハウも是非葛飾と共有できればと思っております。

○葛飾区長 ありがとうございます。ごみの問題については、転入の際に資料もお渡しをして、地元からも説明をしたり、従来に比べますと比較的そういった課題が解決をされてきています。やはりコミュニケーションをとっていくことがとても大事だと思っていますので、それは是非また連携しながらやっていきたいと思っています。

あわせて今回のこの子育て重症心身障害児の話、小池知事からお話いただきましたけれども、子育てはもうずっと葛飾区は力を入れてきていますので、是非こういった個々の課題についても連携して取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

もう一点だけ、新金線の話はもう毎回交通政策審議会の話が出るのですが、今、国と協議をする中で、交通政策審議会答申自体はこれからも働きかけをしていきます。LRTとか答申がなくてもできることもあるものですから、そういったことも含めて具体的に実現できる方向で、今、都の都市計画局の方とも相談させていただいています。いずれにしても、実現に向けて努力をしていきますので、よろしくお願ひします。

○行政部長 ありがとうございます。葛飾区長との意見交換は以上で終了とさせていた



だきます。

○行政部長 それでは府中市長との意見交換を始めさせていただきます。初めに知事からお願いします。

○知事 先日の超たまらん博、御苦労さまでございました。高野市長、今年が多摩地域で体験型の英語学習施設「TOKYO GLOBAL GATEWAY GREEN SPRINGS」を開設して大変府中でも御活用いただいていると聞いております。これからも国際社会で活躍できる人材を府中からということで頑張っていたきたいと思えます。今日は地域の課題、そして都への御要望を伺わせていただきますので、よろしくお願いします。

○府中市長 府中市長の高野でございます。本日はこのような小池都知事との意見交換の場を設けていただきまして、心より感謝申し上げます。

冒頭、若干お時間をいただきまして、先日、ラグビーワールドカップフランス大会が閉会をいたしました。日本代表チームは残念ながら1次リーグで敗退してしまいましたが、本市を活動拠点とする東芝ブレイブルーパス東京と東京サントリーサンゴリアスの両チームの選手も活躍し、本市のけやき並木で実施したパブリックビューイングについても大変な盛り上がりとなりました。このような中、東京都におかれましては、来年度の供用開始に向け、都立府中の森公園にラグビー場を整備いただいていることについて感謝申し上げます。この整備が「ラグビーのまち府中」、さらには「スポーツタウン府中」の更なる魅力向上につながっていくものと期待をしております。引き続きよろしくお願いいたします。

また、もう1点デフリンピックに関連しまして、東京都においても手話言語条例が制定されておりますが、本市では手話の普及及び障害者の意思疎通の促進に関する条例という名前の条例を定めておりまして、全ての市民が障害の有無にかかわらず、相互に尊重し合いながら安心して暮らすことができる地域社会の実現を目指しております。

2025年に東京で開催されるデフリンピックにおいて、本市の総合体育館が競技会場に選ばれており、レスリング競技が実施されることとなります。是非東京都とも連携させていただいて、大会の機運醸成をはじめ、多様性を認め合う共生社会の実現に向けて共に取組を進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。この場をお借りいたしまして御礼、そしてお願いを込めてお伝えをさせていただきましたが、以降は資料に基づきまして、意見交換のため本市が課題として捉えている2つのテーマについてお話をさせていただきます。

1件目は、児童生徒の学校給食費無償化についてであります。新型コロナウイルス感染症の影響については知事をはじめ、東京都の皆様の御尽力もあり、だいぶ落ち着いてきているものと感じておりますが、物価高騰については、あらゆる世代に対する影響が続いております。このような状況を踏まえ、本市では先月10月から来年3月までの間、緊急的な対策として市立小中学校に通う児童生徒の学校給食費の無償化の取組を進めております。

その上で課題となる点についてお話しいたします。少し前のデータとなりますが、8月22日現在で無償化を実施している区は11区、9月以降の実施を予定している区は9区と23区では大部分が無償化を実現できているのに対しまして、多摩26市では2市という状況であり、区部と市部に於ける行政サービスの地域差が生じております。

本市の児童生徒数については、近年、横ばいから減少傾向に転じ始めており、現在合計で約1万9,000人となっております。学校給食費について、昨年度の9月から物価高騰分を保護者の負担としないための補填を行っており、更にこの10月からは無償化に踏み切っております。来年度以降についてはこれからの検討となりますが、年間で無償化を実施する場合の想定費用は約10億円と試算をしております。最後に食料の消費者物価指数をお示ししておりますが、その推移としては増加傾向が続いており、これは子供の健やかな育ちと子育てを支えていく上での課題であると捉えております。

本来、給食費の無償化は自治体間で対応に差異が生じるべきではなく、国の責任と負担のもとで一律に進めていくものと考えておりますが、東京都におかれましても、チルドレンファースト社会の実現に向け、恒常的な無償化のための財政支援について御配慮をお願いしたいと存じます。1件目は以上です。

続いて2件目、府中市子ども発達支援センターについてであります。本市において児童発達支援センターの設置を検討する中で、児童期における切れ目のない支援を実現するため、この名称で令和6年度からサービスを開始するものです。センターの設置の経緯を記載していますが、平成30年度から検討を始め、時間をかけて施設のコンセプト等を検討してまいりました。

スライドに写真を載せておりますが、センターの工事につきましては本年10月に建物が完成しており、外構についても着実に進めているところであります。子ども発達支援センターのコンセプトは「児童期におけるライフステージが変化しても途切れない支援」であり、児童発達支援における中核施設として発達障害のある子供や発達の気になる子供などを対象に、児童期における福祉と教育の横断的な連携体制を構築し、様々な支援事業を実施してまいります。

最後に、このセンターの運営に関しまして、公立の施設ということもあり、支援の必要度が高い子供を優先的に受け入れることから、最低人員基準を大幅に上回る人員配置を予定しております。また、発達の遅れ等の「気づき」の段階からの早期発見、早期支援を行うため、年間350名以上の子供に対し、児童福祉法の法外となる本市独自の療育支援を行ってまいります。これらについては、一部既に東京都の包括補助金の活用も予定させていただいておりますが、子供たちが将来自立した生活を送ることができるよう、更なる財政支援をお願いさせていただきたいと思っております。府中市からは以上でございます。どうぞよろしく願いいたします。

○行政部長 ありがとうございます。それではまず冒頭、知事からお願いします。

○知事 ラグビーの方は1回戦で終わって残念でしたけれども、やはり「ラグビーのまち」ということで盛り上がったことかと思っております。そして、誰もがスポーツができるという環境は、これからはしっかりと構築していきたいものでございます。今後も連携をしたいと思っております。

2点ありました、御要望ですが、私の方から児童発達支援センターへの支援について、お話しさせていただきます。最近、発達障害のあるお子さん、安心して地域で暮らせるように

するという一方で、とても数も増えておりますし、支援に関わるものが自閉症や学習障害など、様々な発達障害に関する知識や障害特性に応じた支援方法を教える方も身につけていくって大変なことでもあります。

児童発達支援センターですが、障害児の通所支援、そして障害児の家庭、障害児を預かる施設がそれぞれの相談に応じていく必要があります。そして、地域における障害児支援の中核的施設として重要な役割を担っていることはいまでもありません。都としましては、児童発達支援センターにおきまして、障害児の相談支援や研修などを行う専門の職員を確保・育成するための経費を補助しております。開設前に人員を確保する場合の経費についても支援をしております。

また、お話がございました、各教育機関との連携でございますけれども、これはとても重要なことであり、現在児童発達支援センターにおける子供や保護者に対する支援状況については、各教育機関と共有なども行っているところでございます。

今後も教育委員会としても適切に連携を図っていくということでもあります。児童発達支援センター地域の障害児支援の中心的な役割を担えるように取組を支援してまいりたいと思います。この後、副知事の方から給食についてお話しさせていただきますけど、そちらの給食の施設に伺ったので、よく覚えております。

**○副知事** 市長、おはようございます。副知事の黒沼でございます。いつもお世話になります。学校給食の無償化のお話がありました。この学校給食費の保護者負担の無償化でありますけれども、これは市長も御案内のとおり、国全体としてまずは学校給食費の負担のあり方を抜本的に整理するか財源についても、臨時交付金のような一時的な措置ではなくて、国の責任で財源を含めて具体的な施策を示すべきだというのが都のスタンスでございます。全国都道府県教育委員会連合会においても、国に対して要望をさせていただいております。

市長も御案内のとおりですが、国においても動きが若干ございまして、令和5年6月の閣議決定した「こども未来戦略方針」では、まず学校給食の実態調査を速やかに行って1年以内にその結果を公表するとされております。都としては、国におけるこの実態の把握、課題の整理等については、しっかりと国の動向等も注視をしていきたい。このように考えております。私からは以上です。

**○府中市長** ありがとうございます。いずれにいたしましても、未来を担う子供たちの健全な育成のために、家族が孤立化しないように、いろんな機関と連携をすることが児童発達支援センター、これは新たに設置する我々の目的でもありますし、共通の認識かと思っております。

また、子供さんを御育てになる御家庭が、現在の物価高の情勢の中で非常に厳しいという声が直接届いていることと、それからどうしても23区でできるのに、どうして多摩地域でできないのかというような御意見をいただきまして、このように実施に踏み切ったところでございますので、是非今、副知事からお話しいただきましたように、国全体で検討を始めているということは十分認識しておりますので、是非東京都におかれましても積極的な御

支援をお願いしたいと思います。

○**行政部長** ありがとうございました。府中市長との意見交換以上で終了とさせていただきます。ありがとうございました。

○**知事** 東芝さんに手話の IT 化、手話って全部言葉によって違うのですよ。その分通訳がいるのですね、25 年にデフリンピックをやりますので、何とかこの IT で手話がオールワールドでつながらないかなと思うのですよ。本当にこういうのやっぱり。

○**府中市長** 先ほど言っていたように、レスリングの競技会場として今選んでいたいでいるので、各国の選手、関係者がおいでになると思いますから、ちょっといろいろな企業ありますので一緒に。

○**知事** ちょっと府中らしい何かプラスアルファ、せっかくの PR もできると思いますからやってみてください。頑張ってください。

○**行政部長** ありがとうございました。以上で終了させていただきます。